

農作物の生育概況等について

1 気象経過

7月上旬は平均気温が高く、日照時間は多く経過した。7月中旬以降は平均気温が平年並から高く、日照時間は平年並から少なく経過した。また、7月15日、19日は県内の広い範囲で大雨となった。

2 主な農作物の生育状況

(1) 水 稲

- ・ 7月20日現在の生育は、平年に比べ、草丈は長く、茎数は少なく、葉数はやや多く、葉色は並となっている。茎数は、平年より少ない傾向にあるものの、収量を確保するための茎数は十分な範囲(500~700本/m²)となっている。出穂期は平年並と見込まれる。7月21日に病害虫防除所が、斑点米カメムシ類に関する注意報を発表し、防除対策の徹底を呼びかけている。

(2) 大 豆

- ・ 生育は概ね平年並で、現在、開花期となっている。

(3) 果 樹

- ・ ぶどう「デラウェア」の収穫は、無加温栽培の盛期であり、6月下旬から7月上旬の高温の影響から着色が遅れ、収穫は前年より5日程度遅れている。
- ・ もも主力品種「あかつき」は収穫期を迎えており、生育初期(5月)の乾燥の影響でやや小玉傾向である。
- ・ 露地栽培の他の樹種(りんご、西洋なし等)の生育は、概ね平年並で仕上げ摘果はほぼ終了した。

(4) 野 菜

- ・ 露地すいかは、6月前半の低温の影響で、生育停滞、着果の遅れが見られた。収穫は7月13日頃から開始しており、収穫盛期は7月27日頃から8月10日頃の見込み(前年よりやや遅い)。
- ・ 露地メロンは、6月前半の低温の影響で、一部で着果不良が見られた。収穫は7月6日頃から開始し、収穫盛期は7月14日頃から7月25日頃となった。果実は、やや小玉傾向である。

(5) 花 き

- ・ 露地花きでは、旧盆需要に向けた、きくやりんどうの出荷が7月下旬から始まっており、品質は良好である。
- ・ 施設花きでは、ばら、トルコぎきょう等が出荷されている。6月後半からの高温により、生育の前進化が見られたが、品質は概ね良好である。ストックの播種は、移植栽培、直播栽培ともに例年並の7月下旬から始まっている。

3 当面の主な技術対策及び農作業安全対策

〈水 稲〉根の活力維持となるよう水管理の徹底、斑点米カメムシ類の防除徹底

〈果 樹〉もも、りんご等の適期収穫と厳選出荷、病害虫防除の徹底

〈野 菜〉換気などの高温対策の徹底、排水対策の徹底、各種病害虫の適期防除の実施

〈花 き〉露地花きの排水対策の徹底、施設花きの各品目特性に応じた温度管理の実施

〈農作業安全〉熱中症や農作業事故防止のための基本的な対策の実施